



佐伯発、元気な企業と働く人々をご紹介します。
今回は大和冷機工業の生産拠点の一つ、
主に業務用冷凍・冷蔵庫を手掛ける佐伯工場。



大和冷機工業株式会社

住所：佐伯市大字長良3325-6
電話：28-3301
FAX：28-3570
URL：http://www.drk.co.jp

代表者：尾崎 敦史
創業年月：昭和33年2月
資本金：99億700万円
売上高：401億4,900万円
従業員数：2,650人(360人)
※()内は佐伯工場

イキナ佐伯の ヒトと企業

VOL.11

佐伯で開発製造された製品が全国へ

—どんな仕事をしてる?—

久保田さん(以下㊸) 飲食店の厨房に置かれている業務用冷蔵庫の設計をしているよ。今は食材にラップをかけずにすむ高湿庫の開発をしているよ。

吉園さん(以下㊹) 僕は一般的な冷蔵庫に工夫や技術を盛り込んだ製品を設計しているんだ。全国の営業所から届けられるお客様の要望を叶えられるよう、日々がんばっているよ。

開発から製造まで担う主力工場

—大和冷機工業とは?—

総合厨房機器メーカーを目指して、冷凍・冷蔵機器を始め、調理用熱機器や衛生機器などをつくる会社です。食の安全と鮮度維持による美味しさの追及を行っています。フットスイッチ(足踏み)や非接触で扉を自動開閉できる冷蔵庫、アイソテール(※1)を活用した故障につながる原因を事前に知らせる冷蔵庫・冷凍庫を開発。既存の製品に新たな機能をプラスすることを得意としています。

—佐伯工場の役割

製造現場の主要拠点でもある佐伯工場では、省エネや環境に配慮

した(ノンフロン化)製品の開発、業務用冷蔵・冷凍庫、ショーケースを生産。他社から委託を受けて、低温物流コンテナや玄米保冷庫などの特注製品も手掛けています。創業者の出身が佐伯市であることから、市内の多くの協力会社に支えられて事業を行っています。小・中学生の工場見学の受入れ、地域行事にも積極的に参加しています。

—海外向け製品を開発

今後の課題は中国や東南アジアなどの海外展開を進めていくこと。すでに製品は開発できたので、これからは販売経路の確立に向けて動いていきます。引き続き地球温

暖化問題に取り組む、地域の発展に貢献していきたいです。

—会社のことが好き

高松さん(以下㊺) 私の業務は製氷機の検査や梱包。出荷される前の製品で実際に氷を作って、きちんと凍っているか、時間どおりにできているかを調べているの。宮脇さん(以下㊻) 加工課は冷蔵庫全般の板金をしているね。大きな機械を使いながら、平の鉄板を切って、穴開けしたり折ったり。作業によっては専門知識が必要なんだけど、課内の誰もができるように取組んでいるよ。

㊸ 旅先の飲食店やテレビに映る厨房で自社製品が置いてあったりするよ、いいなって思うよね。
㊹ 分かる！ドレマで俳優が使っていたりね(笑)職業柄だろうけど、店に入るについで厨房を見ちゃうよ。
㊺ 工場内で情報と技術の共有ができてるのは安心できていいな。
㊻ 年齢に関係なく仲良くしているもんね。製造部では従業員の得意分野を伸ばそうと適材適所を心掛

宮脇誠也さん(31)
入社12年/製造部加工課



高松響さん(23)
入社5年/製造部製氷機課



久保田晃司さん(40)
入社16年/
設計開発部

吉園修平さん(31)
入社7年/技術管理部



けてくれている。
上司と話せる機会があるって、ありがたいよ。
—現在の課題—
㊸ チームの後輩を指導するとき、やりがいを感じつつも難しさに直面することがあるな。言葉の選び方や伝え方に気を付けながら、分かりやすい表現を意識しているよ。

㊹ 展示会などを運んで流行をキャッチする情報収集は欠かせないな。
㊺ 担えるようになって、人手不足の部署の応援に駆け付けられるようになりたいよ。
㊻ サブリーダーとして後輩の希望に応えたり、設計や開発の部署と交流を増やしていきたいね。

小粋な TOPICS

スタッフいちおし佐伯スポット
直川憩の森公園キャンプ場



バンガローのデイユースをしたり、地元食材を使ったパエリアが味わえたりと楽しいこといっぱいのキャンプ場。遊び疲れた後は隣接の鉱泉に寄って、汗を流すこともできます。